

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械システム工学科			1	6	7	7	
	電気情報工学科				6	7	7	
	システム制御情報工学科				6	7	7	
	物質化学工学科				6	7	7	
	生産システム工学専攻			8	0	8	7	
	応用化学専攻				0	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=04&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学理事・副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画 推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>科目の時間数及び担当教員等は4専門学科及び2専攻ごとに検討された原案を教務委員会で審議し、1月頃決定され、それに基づき授業計画(シラバス)を2月中に作成している。</p> <p>学生へは3月頃、webシラバスに記載することにより、公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=04
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本科については教務規則、専攻科については専攻科の履修等に関する規則により、シラバスに基づき適正に成績評価を行い、本科については教員会議において審議、専攻科については教務委員会において審議した後、教員会議において報告しており、全教員の下承のもと実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教務規則に基づき、履修科目ごとの成績評価は、シラバスに基づき、前期末及び学年末に学修の成績と平素の成績を総合して100点満点で点数化し、全科目の合計点の平均を求め、クラス・専攻ごとに順位を算出している。</p> <p>なお、成績の分布状況については、次の区分に従ってその分布状況を取りまとめ、各クラス・専攻単位で適用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 90点以上 ○ 80点以上90点未満 ○ 70点以上80点未満 ○ 60点以上70点未満 ○ 50点以上60点未満 ○ 50点未満 	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/09kyomu.pdf</p> <p>http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/11senkoukaH290921.pdf</p> <p>http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/pdf/seisekihyoka.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、学科・専攻ごとに定めている。</p> <p>本科については、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定は、教務規則に定められており、学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知されており、これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価、単位認定及び卒業・修了認定が行われている。</p> <p>成績評価・単位認定及び進級・卒業認定は、前期末及び学年末に全教員が出席して開催される教員会議において、教務関係規則に基づき審議された後、校長が認定している。専攻科については、成績評価基準、卒業及び修了認定基準は学則に明確に定められ、学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知されており、これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価、単位認定及び卒業・修了認定が行われている。</p> <p>また、成績評価・単位認定は、教務委員会において認定を行い、教員会議において報告している。修了認定は、教員会議において認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf</p> <p>http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/09kyomu.pdf</p> <p>http://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/11senkoukaH290921.pdf</p> <p>「学生生活のしおり」を全学生に配布</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/index3.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/index3.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

機械システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html)
(概要) 「機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け、さらに、各々の技術要素を有機的に構成し、新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた、国際的視野を持った技術者」の育成を目指しており、以下の教育目標を掲げている。 1. 機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付ける。 2. 機械システムを創造する能力を身に付ける。 3. 課題の発見と問題解決のできる能力を身に付ける。 4. 社会環境との調和を多角的に考察できる能力を身に付ける。 5. 幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)
(概要) 学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、以下のとおり学科・専攻ごとに定めている。 機械システム工学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定する。 1. 機械を構成する材料の物性、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない機械工学、計測・制御工学、電気・電子工学など、幅広い知識と技術、応用力を身につけ、それらを応用したモノづくりができる。 2. 機械、計測・制御、電気・電子分野の実験、実習で実践力を身につけ、技術が社会に与える影響や環境について自主的に思考し行動できる。 3. 課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を備え、自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、および国際的視野を身につけ、社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)
(概要) ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、低学年から専門科目を配置し、学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。 機械システム工学科 1. 機械を構成する材料の物性、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない機械工学、計測・制御工学、電気・電子工学などに関連する授業科目を編成する。 2. 実践力を身につけるために、実験科目や実習科目を各学年に系統的に編成する。 3. 豊かな創造力と行動力を身につけるために、課題解決系授業および卒業研究を編成する。 4. 社会に貢献できる基礎能力を育成するために、国語、社会、英語、数学、理科などの一般教養科目を系統的に編成する。 5. 学習成果の評価においては、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また、学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って、準学士課程、専攻科課程それぞれに、求める人物像を定めている。また、入学者選抜の基本方針として、準学士課程では推薦選抜と学力選抜を、専攻科課程では推薦選抜、学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。</p> <p>機械システム工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械に興味を持ち、未知のことにチャレンジする人 2. 科学とエネルギー・環境の関わりを学びたい人 3. モノづくりによって世の中を幸せにしたい人 4. いつも夢を持ち、その実現まであきらめないで努力を続ける人
<p>電気情報工学科</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html)</p>
<p>(概要) 我々の社会、経済、生活が、インターネットの急速な発展によって大きく変わろうとしている。また、半導体技術の発展によって、コンピュータはあらゆる電子機器の中に部品のレベルで組み込まれ、それらが通信ネットワークと有機的に結びついて制御されるユビキタス情報社会を形成しようとしている。このような情報社会では、電気・電子技術をベースとする情報技術者の養成はますます重要になっており、電気情報工学科では以下の教育目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子工学の基礎である電磁気学、電気回路、電子回路等の知識を修得させ、その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を身に付けさせる。 2. 情報工学、計算機工学等の情報技術を修得させ、ソフトウェアプログラミングやネットワークシステムに関する専門的能力を身に付けさせるとともに、電気電子技術と情報技術とが融合する新技術分野に柔軟に対応できる技術者を育てる。 3. 技術が社会に与える影響や環境について考えることができ、電気・電子・情報技術を用いてエネルギー、環境問題にアプローチできる技術者を育てる。 4. 電気・電子・情報分野での問題解決能力を高めるため、国際的視野をもった技術者を育成するとともに、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を養う。
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、以下のとおり学科・専攻ごとに定めている。</p> <p>電気情報工学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学基礎および、電気・電子工学、情報工学の専門知識を身につけ、電気・電子技術と情報技術とが融合する広い専門的視野を持ち、新技術分野に柔軟に対応できる。 2. 電気・電子、情報分野の実験、実習で実践力を身につけ、技術が社会に与える影響や環境について自主的に思考し行動できる。 3. 課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を備え、自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、および国際的視野を身につけ、社会に貢献できる。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、低学年から専門科目を配置し、学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。</p> <p>電気情報工学科 1. 電気回路、電子回路、電磁気学や半導体工学、環境エネルギー工学等の電気電子分野の科目とともに、コンピュータ工学、情報システム工学等の情報工学分野の授業科目を編成する。 2. 実践力を身につけるために、実験科目や実習科目を各学年に系統的に編成する。 3. 豊かな創造力と行動力を身につけるために、課題解決系授業および卒業研究を編成する。 4. 社会に貢献できる基礎能力を育成するために、国語、社会、英語、数学、理科などの一般教養科目を系統的に編成する。 5. 学習成果の評価においては、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また、学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って、準学士課程、専攻科課程それぞれに、求める人物像を定めている。また、入学者選抜の基本方針として、準学士課程では推薦選抜と学力選抜を、専攻科課程では推薦選抜、学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。</p> <p>電気情報工学科 1. プログラムやサイエンスに興味を持ち、未知のことにチャレンジする人 2. 情報ネットワークやエレクトロニクスについて学びたい人 3. 電子、情報、通信の総合技術のたくさんの分野で、世の中を幸せにしたい人 4. いつも夢を持ち、その実現まであきらめないうで努力を続ける人</p>
<p>システム制御情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html)</p>
<p>(概要) 「コンピュータ中心のシステム作り」をキーワードとして、情報技術と機械工学、電気工学等の基礎が融合した複合領域分野で活躍できる国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。具体的には、以下の項目を教育目標とする。 1. コンピュータ応用技術に関する専門科目と実験・実習を通して、コンピュータを道具として自在に操る情報技術を持たせる。 2. 機械工学、電気・電子工学に関する専門科目と実験・実習を通して、ものづくりの基礎となる知識を習得させるとともに、ものづくりのセンスを磨かせる。 3. 情報技術、機械工学及び電気・電子工学を融合させた分野である画像・計測システム、情報システム、制御システム、メカニカルシステム等の複合領域の技術を持たせる。 4. 卒業研究を通して、学んだ知識を総合的に応用して国際的視野を持って創造する力を育てる。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、以下のとおり学科・専攻ごとに定めている。</p> <p>システム制御情報工学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工学を中心として、電気・電子工学、情報技術における知識とともにシステム制御の技術を身につけ、多様な複合領域にまたがる分野に対応できる。 2. 機械、電気・電子、情報分野の実験、実習で実践力を身につけ、技術が社会に与える影響や環境について自主的に思考し行動できる。 3. 課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を備え、自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、および国際的視野を身につけ、社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、低学年から専門科目を配置し、学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。</p> <p>システム制御情報工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料力学、CAD 等の機械系科目、電気工学、制御工学等の電気電子系科目、情報処理、数値計算等の情報系科目とともに、それらの融合分野となるメカトロニクスやロボティクス、システム工学などの授業科目を編成する。 2. 実践力を身につけるために、実験科目や実習科目を各学年に系統的に編成する。 3. 豊かな創造力と行動力を身につけるために、課題解決系授業および卒業研究を編成する。 4. 社会に貢献できる基礎能力を育成するために、国語、社会、英語、数学、理科などの一般教養科目を系統的に編成する。 5. 学習成果の評価においては、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また、学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って、準学士課程、専攻科課程それぞれに、求める人物像を定めている。また、入学者選抜の基本方針として、準学士課程では推薦選抜と学力選抜を、専攻科課程では推薦選抜、学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。</p> <p>システム制御情報工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータを用いたモノづくりに興味を持ち、未知のことにチャレンジする人 2. ロボットなどを作り動かすために必要な知識や技術を学びたい人 3. 幅広い知識や技術を用いて世の中を幸せにするモノづくりをしたい人 4. いつも夢を持ち、その実現まであきらめないうで努力を続ける人 <p>物質化学工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験・観察・モノづくりに興味を持ち、未知のことにチャレンジする人 2. 新素材、バイオテクノロジー、環境等に関する知識と技術を学びたい人 3. 化学や生物の分野で、世の中を幸せにするモノづくりをしたい人 4. いつも夢を持ち、その実現まであきらめないうで努力を続ける人

物質化学工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html)</p>
<p>(概要) 食品、医療、環境保全、エネルギー、情報、材料等、現代生活を支えるあらゆる分野に貢献できる、国際的視野を持った技術者の育成をめざして、以下のような教育目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学及び生物分野の基礎的知識を、実験等を通して十分身に付けさせる。 2. 化学及び生物分野の専門的知識を基に、幅広い視野に立って地域社会や社会全体に貢献できる能力を身に付けさせる。 3. 人間と自然環境との関わりを理解し、科学技術がそれに与える影響を自覚できる能力を身に付けさせる。 4. 様々な分析機器や情報機器を積極的に活用して、諸問題に取り組む能力を身に付けさせる。
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、以下のとおり学科・専攻ごとに定めている。</p> <p>物質化学工学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学および生物分野における幅広い専門知識と技術、応用力を身につけ、それらを基に物質創成や技術開発ができる。 2. 化学、生物分野の実験、実習で実践力を身につけ、技術が社会に与える影響や環境について自主的に思考し行動できる。 3. 課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を備え、自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、および国際的視野を身につけ、社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、低学年から専門科目を配置し、学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。</p> <p>物質化学工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無機化学、有機化学、物理化学等の化学系科目、生化学、微生物学等の生物系科目とともに、化学工業において必要な化学工学などの授業科目を編成する。 2. 実践力を身につけるために、実験科目や実習科目を各学年に系統的に編成する。 3. 豊かな創造力と行動力を身につけるために、課題解決系授業および卒業研究を編成する。 4. 社会に貢献できる基礎能力を育成するために、国語、社会、英語、数学、理科などの一般教養科目を系統的に編成する。 5. 学習成果の評価においては、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また、学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って、準学士課程、専攻科課程それぞれに、求める人物像を定めている。また、入学者選抜の基本方針として、準学士課程では推薦選抜と学力選抜を、専攻科課程では推薦選抜、学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。</p> <p>物質化学工学科 1. 実験・観察・モノづくりに興味を持ち、未知のことにチャレンジする人 2. 新素材、バイオテクノロジー、環境等に関する知識と技術を学びたい人 3. 化学や生物の分野で、世の中を幸せにするモノづくりをしたい人 4. いつも夢を持ち、その実現まであきらめないで努力を続ける人</p>
<p>生産システム工学専攻 教育研究上の目的 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html)</p>
<p>(概要) 機械システム工学科、電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし、それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し、メカトロニクス、エレクトロニクス、コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる、総合的能力を備えた技術者を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、以下のとおり学科・専攻ごとに定めている。</p> <p>生産システム工学専攻は、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に対して修了を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科で修得した機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎の上に、より深く高度な知識・技術を身につけ、専門分野および複合・境界領域の諸問題に自主的に対応できる。 2. 専門分野および複合・境界領域分野の実験・実習を通じて実践力を身につけ、技術が社会に与える影響や環境について、自主的に思考し行動できる。 3. 専門分野および複合・境界領域に対して、課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力をもち、自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、倫理観および国際的視野を身につけ、社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、低学年から専門科目を配置し、学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。</p> <p>生産システム工学専攻 1. 専門分野の知識・技術を修得する科目として、機械工学、電気・電子工学、情報工学分野、複合・境界領域の知識・技術を修得する科目として、環境マネジメント、環境科学等を編成する。</p>

<p>2. 専門分野および複合・境界領域分野を修得する科目として、工学情報処理演習、生産システム工学特別実験等を編成する。</p> <p>3. 豊かな創造力を発揮し総合的な判断能力を修得する科目として、エンジニアリングデザイン、生産システム工学特別研究、生産システム工学特別ゼミナール等を編成する。</p> <p>4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、倫理観および国際的視野を修得する科目として、技術者倫理、英語総合演習、国際関係論、歴史と文化等を配置する。</p> <p>5. 学習成果の評価においては、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また、学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って、準学士課程、専攻科課程それぞれに、求める人物像を定めている。また、入学者選抜の基本方針として、準学士課程では推薦選抜と学力選抜を、専攻科課程では推薦選抜、学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。</p> <p>生産システム工学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工学，電気・電子工学，情報工学に関連する十分な基礎学力を有する人 2. 機械工学，電気・電子工学，情報工学に関連する分野の高度な知識と技術，実践力を身に付けたい人 3. 機械工学，電気・電子工学，情報工学に関連する分野で，社会の発展に貢献できる技術者・研究者を目指す人 4. 目的に向けて，主体的かつ継続的に努力できる人

<p>応用化学専攻</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし、化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し、製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる、総合的な能力を備えた技術者を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>学生が卒業（修了）時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を、以下のとおり学科・専攻ごとに定めている。</p> <p>応用化学専攻は、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に対して修了を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科で修得した化学および生物分野の基礎の上に、より深く高度な知識・技術を身につけ、専門分野に加えて複合・境界領域の諸問題にも自主的に対応できる。 2. 化学および生物分野における高度な実験・実習を通じて実践力を身につけ、技術が社会に与える影響や環境について、自主的に思考し行動できる。 3. 専門分野および複合・境界領域に対して、課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力をもち、自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、倫理観および国際的視野を身につけ、社会に貢献できる。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、低学年から専門科目を配置し、学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。</p> <p>応用化学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野の知識・技術を修得する科目として、化学、生物分野を、複合・境界領域の知識・技術を修得する科目として、環境マネジメント、環境科学等を編成する。 2. 専門分野および複合・境界領域分野を修得する科目として、化学情報工学、応用化学特別実験等を編成する。 3. 豊かな創造力を発揮し総合的な判断能力を修得する科目として、エンジニアリングデザイン、応用化学特別研究、応用化学特別ゼミナール等を編成する。 4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力、倫理観および国際的視野を修得する科目として、技術者倫理、英語総合演習、国際関係論、歴史と文化等を配置する。 5. 学習成果の評価においては、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また、学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf)</p>
<p>(概要) 本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って、準学士課程、専攻科課程それぞれに、求める人物像を定めている。また、入学者選抜の基本方針として、準学士課程では推薦選抜と学力選抜を、専攻科課程では推薦選抜、学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。</p> <p>応用化学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学および生物分野に関する十分な基礎学力を有する人 2. 化学および生物分野の高度な知識と技術、実践力を身に付けたい人 3. 化学および生物関連の分野で、社会の発展に貢献できる技術者・研究者を目指す人 4. 目的に向けて、主体的かつ継続的に努力できる人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
機械システム工学科	—	4人	3人	人	1人	人	8人
電気情報工学科	—	3人	4人	人	2人	人	9人
システム制御情報工学科	—	3人	5人	人	人	人	8人
物質化学工学科	—	4人	5人	人	1人	人	10人
一般人文科	—	3人	5人	人	1人	人	9人
一般理数科	—	5人	4人	人	人	人	9人
所属なし	—	人	1人	人	人	人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		21人					21人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教務委員会において、5月頃にFD事業計画を審議し、実行している。また、教務委員会の指示に基づき、下部組織である教育手法等改善部会において、FD活動を推進している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械システム工学科	40人	39人	97.5%	200人	200人	100%	若干名	0人
電気情報工学科	40人	40人	100%	200人	196人	98%	若干名	2人
システム制御情報工学科	40人	40人	100%	200人	199人	99.5%	若干名	0人
物質化学工学科	40人	41人	102.5%	200人	207人	103.5%	若干名	2人
合計	160人	160人	100%	800人	802人	100.3%	人	4人
生産システム工学専攻	12人	15人	125%	24人	31人	129.2%	人	人
応用化学専攻	4人	15人	375%	8人	23人	288%	人	人
合計	16人	30人	187.5%	32人	54人	168.8%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械システム 工学科	35人 (100%)	9人 (25.7%)	26人 (74.3%)	1人 (%)
電気情報工学 科	30人 (100%)	15人 (50%)	15人 (50%)	1人 (%)
システム制御 情報工学科	38人 (100%)	13人 (34.2%)	24人 (63.2%)	1人 (2.6%)
物質化学工学 科	46人 (100%)	27人 (58.7%)	18人 (39.1%)	1人 (2.2%)
合計	149人 (100%)	64人 (43.0%)	83人 (55.7%)	2人 (1.3%)
生産システ ム工学専攻	8人 (100%)	3人 (37.5%)	5人 (62.5%)	1人 (%)
応用化学専 攻	10人 (100%)	7人 (70%)	3人 (30%)	1人 (%)
合計	18人 (100%)	10人 (55.6%)	8人 (44.4%)	1人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 北海道大学, 室蘭工業大学, 北見工業大学, 宇都宮大学, 千葉大学, 北海道大学大学院, 筑波大学大学 院, 早稲田大学大学院 出光興産(株), 北海道電力(株), ニプロ(株), サッポロビール(株), 王子エフテックス(株), 北海道エ ア・ウォーター(株), 北海道ガス(株), 日鋼機械センター, 矢崎総業(株), キヤノン(株), パナソニック (株), サントリーホールディングス(株), 旭化成(株) 外多数				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
機械システム 工学科	40人 (100%)	34人 (85%)	5人 (12.5%)	1人 (2.5%)	人 (%)
電気情報工学 科	37人 (100%)	28人 (75.7%)	6人 (16.2%)	3人 (8.1%)	人 (%)
システム制御 情報工学科	42人 (100%)	36人 (85.7%)	3人 (7.1%)	3人 (7.1%)	人 (%)
物質化学工学 科	46人 (100%)	39人 (84.8%)	2人 (4.3%)	5人 (10.9%)	人 (%)
合計	165人 (100%)	137人 (83.0%)	16人 (9.7%)	12人 (7.3%)	人 (%)
生産システム 工学専攻	8人 (100%)	8人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
応用化学専攻	10人 (100%)	9人 (90%)	1人 (10%)	人 (%)	人 (%)
合計	18人 (100%)	17人 (94.4%)	1人 (5.6%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>科目担当教員等は4専門学科及び2専攻ごとに検討された原案を教務委員会で審議し、1月頃決定され、それに基づき授業計画（シラバス）を2月中に作成している。</p> <p>学生へは3月頃、webシラバスに記載することにより、公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学生が卒業(修了)時に身につける学力や、資質・能力、養成しようとする人材像をより具体化した卒業(修了)認定方針(ディプロマ・ポリシー)を、学科・専攻ごとに定めている。本科については、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定は、教務規則に定められており、学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知されており、これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価、単位認定及び卒業・修了認定が行われている。

成績評価・単位認定及び進級・卒業認定は、前期末及び学年末に全教員が出席して開催される教員会議において、教務関係規則に基づき審議された後、校長が認定している。

専攻科については、成績評価基準、卒業及び修了認定基準は学則に明確に定められ、学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知されており、これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価、単位認定及び卒業・修了認定が行われている。

また、成績評価・単位認定は、教務委員会において認定を行い、教員会議において報告している。修了認定は、教員会議において認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械システム工 学科	167 単位	無	単位
	電気情報工学科	167 単位	無	単位
	システム制御情 報工学科	167 単位	無	単位
	物質化学工学科	167 単位	無	単位
	生産システム工 学専攻	62 単位	無	単位
	応用化学専攻	62 単位	無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	機械システム 工学科	234,600 円	84,600 円	183,000 円～ 196,100 円	(内訳) 学生会費：8,000 円 教科書・教材費：約 80,000 円 後援会費：95,000 円(スポーツ振興セン ター共済掛金 1,550 円含む)(5 年分) 寄宿料：8,400 円～9,600 円(寮生のみ) 父母会会費：3,500 円(寮生のみ)
	電気情報工学 科				
	システム制御 情報工学科				
	物質化学工学 科				
	生産システム 工学専攻	74,000 円			(内訳) 教科書・教材費：約 30,000 円 後援会費：44,000 円(スポーツ振興セン ター共済掛金 1,550 円含む)(2 年分)
	応用化学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

修学上特別な支援が必要な学生の把握は、入学手続き時に行うとともに、保護者と面談を行った上で要望に沿った支援ができるように特別支援室が対応している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

より包括的な進路指導を行うために、進路支援委員会をキャリア形成支援室に改組して、学生総合支援センターの下に設置し、望ましい職業観を身に付けることと、自らの個性を理解するキャリア教育を低学年のうちから行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

悩み、心配、不安、病気その他様々な問題を抱えている学生や障害学生修学支援の対応のため、医務室には看護師2名、専門カウンセラー2名の体制で支援を行っている。

また、心身両面の健康維持のために、看護師が常駐する医務室及び非常勤カウンセラーを配置した学生相談室が有効利用され、様々な相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <http://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html>